

「文学のまち大津」 ブランディング事業の進捗状況について

令和7年12月11日
市民部 文化振興課

（１） 背景

- ・ 令和６年大河ドラマ『光る君へ』の放送を契機に、大津の文学的魅力への注目が上昇している。
- ・ 大津は『源氏物語』のほか、俳句・かるた・百人一首など、多彩な文学資源が存在し、今村翔吾氏や宮島未奈氏などの現代作家も在住している。
- ・ これらの資源は、市民の誇りや愛着の源であると同時に、観光・教育・まちづくりなど多方面への展開が可能な大きなポテンシャルを秘めている。

（２） 事業の概要

- ・ ５本柱（ブランディング戦略の策定、イベントの企画・実施、協議会の運営、ユネスコ創造都市ネットワーク加盟に向けた取組、プロモーションの実施）で推進する。
- ・ 豊かな文学・歴史文化資源を整理・活用し、市民とともに再発見・共有していく取組とする。
- ・ イベントやプロモーション、国際的ネットワークとの連携を通じて、「文学のまち大津」としての魅力を市内外に発信する。
- ・ 令和７年度は、市民アンケートや協議会などを通じて、今後５年（R8～R12）のブランド推進ロードマップを策定する。

（３） 目指す方向性

- ・ 市民が「文学のまち大津」であることを身近に感じ、自らのまちに誇りと愛着を持てるようにする。
- ・ 「文学のまち大津」の知名度と価値を向上させ、その先に2027年ユネスコ創造都市ネットワーク（UCCN）文学分野での加盟を目指す。

（※）ユネスコ創造都市ネットワーク（UCCN）とは

2004年に創設された、国際ネットワークで、クラフト＆フォークアート、デザイン、映画、食文化、文学、メディアアート、音楽、建築の８分野で構成される。世界の加盟都市は現在約400都市が認定されており、文学分野では63都市が加盟している。日本では12都市（うち文学分野では岡山市）が加盟している。

「文学のまち大津」の取組の全体像(イメージ)

文学のまちの取組により目指すべき姿(案)

文学を通じたシビックプライドの醸成

多様な文学に親しむ
市民の増加

ブランディング戦略

戦略をもとに、イベント、プロモーションを計画・実施

「文学のまち大津」の
知名度・価値の向上

イベント

- ・かるた体験教室
- ・俳句ワークショップ
- ・源氏物語講演会
- ・芭蕉の句碑巡り
- ・文学名所のガイドツアー

などを想定

アンケート調査

文学に関する
・関心
・ニーズ
・資源

文学資源 の掘起し

- ・再発見
- ・再評価
- ・情報発信

団体 ヒアリング調査

文学活動団体の
・課題
・ニーズ
・支援

プロモーション

- ・ロゴの作成
- ・ショート動画の公募
- ・文学資源観光マップの作成
- ・文学活動団体の情報発信
- ・SNSの活用

などを想定

ユネスコ創造都市ネットワークの加盟

文学と他分野
との連携
(音楽や食文化等との協働)

中長期的な
ロードマップ
(計画的・継続的な取組)

行政の
リーダーシップ
(全市的な取組)

産学官の
連携・共創
(まちの活性化)

文学資源の
ブランド化
(社会的・経済的価値の創出)

文学を通じた
国際貢献
(国際的なネットワーク)

予算（委託費）：1,815万円 実施期間：令和7年度～令和8年度

委託事業者：(株)地域計画建築研究所（アルパック）

① ブランディング戦略の策定

市民アンケートやヒアリングで市民の意識・ニーズを把握し、専門家の助言を受けながら、「文学のまち大津」推進ロードマップを策定し、施策の方向性を明確化する。

② イベントの企画・実施

文学まち歩きや朗読会など、市民や地域団体等と連携したイベントを実施し、幅広い世代が文学を楽しめる機会を提供することで、シビックプライドの醸成とまちの賑わい創出を図る。

③ 協議会の運営

市民、団体等が参画する「文学のまち大津推進協議会」を設置し、意見交換や進捗確認を通じて、市民参画型のブランディングを推進する。

④ ユネスコ創造都市ネットワーク（UCCN）加盟に向けた取組





専門家の助言を受け、ユネスコ創造都市ネットワーク（UCCN）加盟に向けた体制づくりと国際的ネットワーク形成を推進する。

⑤ プロモーションの実施

ロゴや動画などを活用し、HPやSNS等の広報媒体で発信する。市民向けの浸透と同時に、国内外へのPRを強化し、大津の文学資源のブランド価値を高める。

全体スケジュール

スケジュール（令和7～8年度） （株）アルパック委託期間

	令和7年度	令和8年度
ブランディング戦略の策定	戦略策定 9月～10月 市民アンケート調査 11月～4月頃 ロードマップ作成	
イベントの企画・実施	11月15日 湖都の葉マルシェ （商工労働政策課）  イベント 源氏物語 かるた関連など	秋期 湖都の葉マルシェ  「文学のまち大津」推進協議会 によるイベントの実施（湖都の葉マルシェなど）
協議会の運営	1月 第1回協議会 3月 第2回協議会	6月 第3回協議会 10月 第4回協議会 2月 第5回協議会
UCCN加盟に向けた取組	随時 専門家に相談	6月頃 UCCN加盟のためのフォーラムを予定  12月申請書提出予定  新規加盟認定結果は令和9年秋頃見込
プロモーションの実施	11月 ロゴ制作	動画やSNSを通じた発信

(1) 文学関連団体のヒアリング

- ・ 市内の俳句団体、短歌団体、かるた関連団体、文芸サークルなど、多様な文学団体に対してヒアリングを実施。
- ・ 各団体の取組みを可視化し、その成果を『広報おおつ』11月号からの1年間連載予定。

(2) 市民アンケートの実施（完了）

- ・ 対象3,000人へ郵送＋オンライン方式で実施（9月～10月）
（有効回収率：約40%）
- ・ 今後の施策を検討するための基礎データとして整理中。
- ・ 市民の多くは、文学に関する取組の認知度が低い一方で、紫式部・百人一首など大津固有の文学資源には比較的高い関心が示される。

(3) 「文学のまち大津」ロゴ完成

- ・ イベントや広報物に使用し、ブランドの一体感を高める。
- ・ 湖都の葉マルシェにおいてのぼり旗を掲出する。
- ・ 市HPに掲載するとともに、プレスリリースを行い、広く活用の周知を図る。



湖都の葉マルシェ内の「文学のまち大津」PRブース



(4) 湖都の葉マルシェの開催

開催日時 令和7年11月15日（土）10時～15時

会場 メイン：なぎさ公園おまつり広場・修景緑地
サテライト：丸屋町商店街周辺

来場者 推計3,500人（目標3,000人）

目的

- ① 作家・クリエイターが活躍できる**
作家・クリエイターが表現できる場を提供することで文学活動を後押しする。また、他の作家・クリエイターや市民団体との交流や連携のきっかけとなる。
- ② 将来の作家・クリエイターの掘り起こし・育成**
市民が様々な文学作品や作家・クリエイターの活動に触れることで、市民自らが将来の作家・クリエイターとなる動機づけを行う。
- ③ 文学ファンの創出**
市民が文学の魅力に触れることで、文学に関心や親しみをもつきっかけとなる。
- ④ 「文学のまち大津」を市内外に発信する**
文学にゆかりが深いまちであることを市内外に広く周知広報し、シビックプライドの醸成を図る。
- ⑤ 地域の賑わい創出**
商店街等の市内の事業者と連携し、イベント会場を含む中心市街地の賑わい創出を図る。

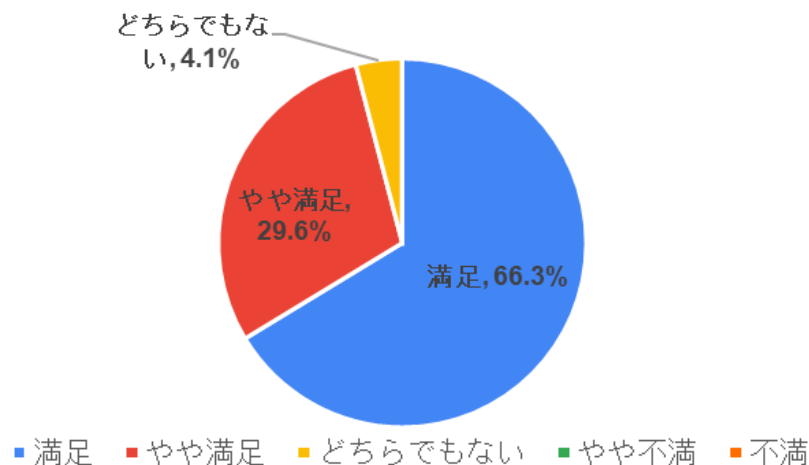
実行委員会

- ・（一社）大津市商店街連盟
- ・（公社）びわ湖大津観光協会、
- ・（株）まちづくり大津
- ・大津市（商工労働政策課・文化振興課・図書館）

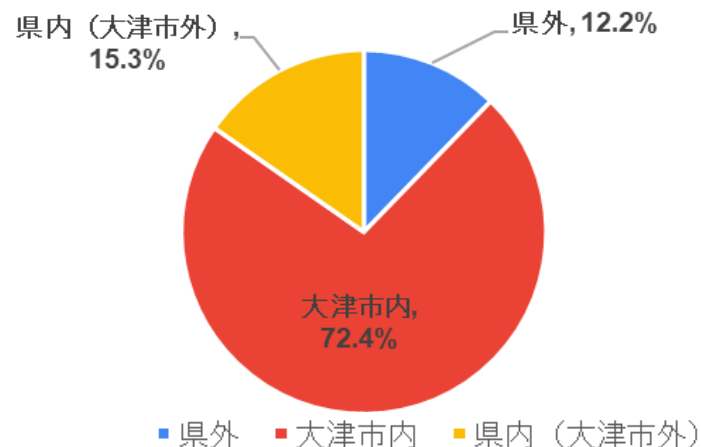


来場者アンケート 回答=98

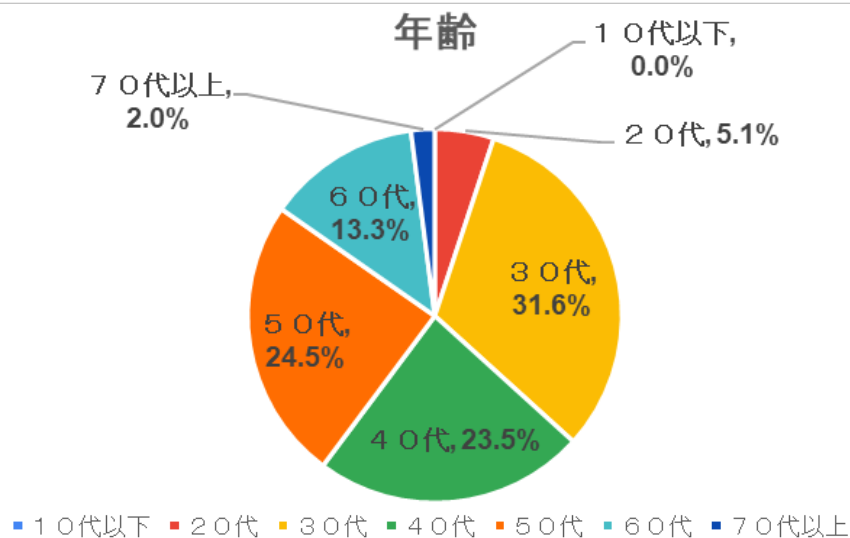
満足度



どこから来たか



年齢



- 満足と回答した方は約96%
- 幅広い年齢層の方が来場
- 約3割が市外（県外）から来場

来場者の声

- ・ 老若男女が参加できるイベントだった。
- ・ たくさんの方が自分の本を販売しているんだと見て、話して、感じる事が出来た。
- ・ 大津市民として「文学のまち大津」をアピールすることは素晴らしいと思いました。また石山寺と紫式部が大津にもたらした大きな財産を再確認できて感激です。
- ・ ZINEと言う自費出版小冊子の存在も知ることができて、ものを書く人の情熱に触れることができたのも学びとなりました。

出店コンテンツ概要

文学作品のフリーマーケット

出店者 90者

■ コンテンツ

当日出店者90者による自費出版を中心とした文学作品のフリーマーケットを実施。本屋では出会えないような個性豊かな唯一無二のZINEや古本が並び、来場者は作者と直接話すことができた。

■ 出店者の声

「自分の作品の感想を直接聞くことができ、グッとくるものがありました」

「手に取ってもらえたのがすごく嬉しかった」



大津の文学PRブース・出版者等ブース

■ コンテンツ

湖都の文学や青春21文字のメッセージなどの大津の文学のPRや大津おやこ劇場による、しおり作りワークショップを実施。源氏物語関連グッズの販売、坂本城に関する展示などを実施。

市内・県内出版社等による出版物の販売やワークショップを実施。ZINEづくりワークショップでは、「ZINEの魅力を初めて知り、自分でも作りたい」等の担い手の発掘・育成に繋がる声もあった。



出店コンテンツ概要

リサイクル本の譲渡会・移動図書館

■ コンテンツ

リサイクル本の譲渡会と移動図書館を実施。

譲渡会は大人気コンテンツとなり、イベント開始早々から多くの方の来場があった。来場者アンケートにおいても満足度が高かった。移動図書館にも多くの来場者が集まった。

スタンプラリーポイントでもあったため、はじめて移動図書館車を見た、はじめて利用したという声もあり、移動図書館の魅力を知ってもらう良い機会となった。

- 移動図書館「さざなみ号」
利用者数45人 貸出冊数108冊 新規登録者1人

- 図書館のリサイクル本の譲渡会
一般書 準備2,300冊 提供2,100冊



湖都の葉おはなし会・児童書の譲渡会

■ コンテンツ

6団体による読み聞かせ等を実施。

《図書館本館利用団体》

大津市文庫交流会、大津おはなしのとびら、外国絵本の読み聞かせの会、朗読ボランティア「サークルDo」

《北館利用団体》おはなし会「たーたか」

《その他》近江怪談クラブ

また、児童書を約1,300冊準備して、980冊を提供。

サテライト会場のブースは、お菓子の家をコンセプトに装飾を実施。子どもたちの笑顔が沢山見られた。

- 湖都の葉おはなし会 来場者数延べ102人

- 児童本の譲渡会
児童書準備1,300冊 提供980冊



出店コンテンツ概要

青春21文字のメッセージ特別展示会

■ コンテンツ

今年度の入選作品100点を展示。さらに滋賀大学教育学部の協力で、メッセージを絵にした作品の展示も実施。小学生など小さな子どもから大人まで、滋賀県のみならず全国各地から応募された作品が並んだ。

スタンプラリーポイントとして設置し、来場者によるお気に入り作品の投票も実施したこともあり、イベント中は終始多くの方が来場された。今後、投票を集計し、湖都の葉マルシェ賞が決定予定。「初めて青春21文字のメッセージを知った。」「微笑ましいものやキュンとするものまでいろいろあり、癒されました。」という声もあった。

推定来場者数：1,000名以上 推定投票者数：500名以上



トークイベント

■ コンテンツ

「文学の寺」石山寺鷺尾座主×直木賞作家今村翔吾氏によるトークイベント。第1部で鷺尾座主単独講演、第2部で鷺尾座主と今村氏によるトークセッション、第3部で今村氏による単独講演を実施。司会はびわ湖放送の森田恵奈アナウンサー。講演テーマは「文学と大津」。また、今村氏の単独講演の後には、今村氏の書籍販売とサイン会を実施。

推定来場者数：100名（指定席50名、立見席50名）



(5) 協議会立ち上げの準備（ワーキングチームの設置）

- 官民連携した協議会設置に向け調整を進めるとともに、市民部をはじめ、産業観光部・教育委員会など庁内横断によるワーキングチームを編成している。

「文学のまち大津」に関する協議会等、体系図・イメージ（案）

新設

「文学のまち大津」推進協議会

発展

おおつ文学のイベント実行委員会

事務局：大津市市民部文化振興課
メンバー：文学・文化政策に関わる学識経験者
俳句、かるた・百人一首など本市の文学資源に関わる団体
文化振興やまちづくりに携わる教育機関・経済団体等

文化全般・文化振興計画に関する合議体

湖都文化推進審議会

文化振興計画の意見答申・諮問機関

委員長：小寄 善通（成安造形大学学長）

委員：中根 庸介（滋賀大学教育学系准教授）
音羽 菊寿寿（大津市文化連盟会長）
金子 博美（びわ湖大津観光協会副会長）
角間 利昭（しがぎん経済文化センター）
中井 洋子（大津市青少年育成市民会議副会長）
今井 竜（公募市民）

湖都文化庁内推進本部

文化振興計画の進捗管理など

本部長：市民部長
副本部長：市民部次長

本部員メンバー 政策調整部次長
健康福祉部次長
こども未来部次長
産業観光部次長
環境部次長
都市計画部次長
教委・教育部次長

専門部会
立ち上げ

庁内連携体制

新設

文学のまち大津 ワーキングチーム

（湖都文化推進本部会議の専門部会）

「文学のまち大津」に関する
所属の職員＋庁内公募職員で構成